



かみ あい ひと つか
「神を愛し、人に仕える」

かいいりじちよう おおさわ せいいち
ちいろば会理事長 大澤 星一

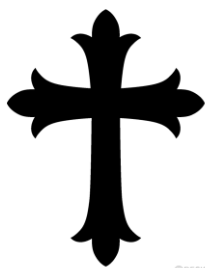
せいしょ せいしょ ひとびと さ ことば
聖書には、聖書の人々を指す言葉として、「イスラエル」や、「ユダヤ人」、「ヘブライ人・ヘブル人」などと
いった呼び方がその時の状況や時代によって用いられています。「ヘブライ人・ヘブル人」という呼び方は
だいたい聖書のひとびとが自分たちを呼ぶ時に使われているようです。イスラエルにある国立大学も、イスラ
エル大学ではなく、ヘブライ大学です。この「ヘブライ」という語の語源は、いろんな説がありますが、「イブ
リー」とか「ハビル」という言葉が語源になっていると考えられています。そして、この言葉が指すのは、荒く
れ者とか野盗集団とか義賊でもあったようです。いわゆるヤクザ者です。もちろん今の暴力団ではなく、
くにさだちゆうじ しみず じろ ちよう おかし ひとびと おやぶん ひ なかみず なか
国定忠治とか清水の次郎長といった昔のアウトローの人々でした。親分のためならたとえ火の中の水の中、
といった子分と、そんな子分を愛し、守り、面倒を見る親分、といった集団です。

きゅうやくせいしょ しょだい おう か
旧約聖書には、初代のイスラエル王がサウルであったと書かれています。しかし、このサウルは王となっ
た後、だんだん神から離れていき、自分のことしか考えられなくなります。そして二代目の王としてダビデ王
が登場します。この辺りの経緯は詳しくは書かれていないのですが、僕が想像するのは、サウル王が弱い
立場の者を顧みなくなった政治や、中央集権主義に反旗を翻したダビデら「イブリー」たちが立ち上がっ
てサウルを倒したのは、というところです。

そんな「イブリー」の親分だったダビデと子分の関係は、強い信頼と愛で築かれていて。それが当時のヤ
ハウェ信仰と結びついたので。子分に慕われ、親分に忠実だった「イブリー」たち。ダビデを始め、彼ら彼
女らは、ヤハウェという大親分と出会って、自らの生の意味を見出し、ヤハウェに忠実であることを自らに
課し、ヤハウェによる平和のために生きたのです。かなり想像による考えになりますが、ロマンを感じないで
しょうか。

おかし きょうかい ぼくし おやぶん ぼくし
昔の教会の牧師も、こんな「イブリー」の親分のような牧師がいっぱいいました。

にしやまときょうかい ぜんぼくし たかみとしおぼくし せんげつ にち な たかみぼくし ほこ
西大和教会の前牧師であった高見敏雄牧師が先月26日に亡くなりました。高見牧師もまたこの誇り
高い「イブリー」でした。神に忠実であり、その神による平和のために働き、人に仕え続けた「イブリー」で
した。この信仰の上に、今のちいろばも愛の園も、もちろん西大和教会もあります。私たちも同じ道を歩ん
でいきたいと願っています。深い感謝を込めて。



©DESIGNALIKE

たか み せんせい おし くだ だい じ
高見先生が教えて下さった『大事な』こと

ちいろば えんしゅにん おくだ ようこ
ちいろば園主任 奥田 陽子

さ がる 2 月 26 日、ちいろば かいぜん り じ である高見敏雄先生が逝去されました。
ここ 数年、じんこう とう せき かよ 通っておられましたが、しんがた 新型コロナウイルスに感染し
ようだい あつか 容体が悪化したようです。

にしやまときょうかい ぜんぼくし たか み せんせい れいはい えん き くだ さい
西大和教会の前牧師でもある高見先生。クリスマス礼拝などでちいろば園に来て下さった際にはい
つも、りようしゃ のみなさんに「やあ！」と手を挙げて、「元気ですか？」と顔を見て優しく声をかけてお
られました。また、ほん し (ちいろばだより) においても長年に亘り巻頭文を書いて下さいました。高見
せんせい ぶんしやう よ じ ぶん はたら えているちいろば園が本当に多くの方々の想いによって実現し、支え
られ、こんにち いた していることを実感できます。そして何より、「ともに生きる社会を創造する」という
ほうじんりねん どういうことなのか、あらゆる視点からその意味が伝わってきます。

2012 年にしょうがいしやぎやくたいぼう し ほう し ころ として、ともな かい ほうじんない しよくいん
でなく外部の方も含めた権利擁護委員会を設置し、支援内容等を評価する会議を年 3 回開催し現在に
いた 至っています。2012 年のねん かい し とうしやう とうかい たか み せんせい さん か くだ
開始当初から数回、高見先生も参加して下さいました。

「(職員は、) りようしゃ のみんなのことを『大事な』ひと として、そんげん そんちやう し えん
高見先生が わたし たち し えんしや はな されたことばです。このとき おっしゃった『大事な』ということばは、
すぐ おち 重みのあるものとしてこの時からずっと私 の こころ なか の中にあります。難 しいことばではないけれ
ど、ハッとしたかんかく いま おぼ 感覚を今でも覚えています。

「隣人を自分のように愛しなさい」(マタイによる福音書 22 章) ということばも引用されました。
あなたの とな 隣りにいる人を、あなたが自分 を『大事に』するのと同じように『大事に』してください、と
いうメッセージだと う 受け止めています。ひ び じっせん において、め まえ 目の前にいる人を『大事に』すること。
自分 だ たら どう 思うの?、自分 なら 嫌なのに、りようしゃ のみなさんなら しかた 仕方ないの?、自分 と 相手の たち
じやう 場を置き換えて 考えた? そんな問いを、わたし し えんしや つね じ ぶん しん な 常に自分自身に投げかけ、立ち止まり、考
える ひつよう 必要があることを高見先生は 教えて下さった ように 思います。

そしてもう一つ、「(さまざまな課題は) 他人 事ではない。自分の生き方をかけて問題を 考 えていっ
てほしい。」とも 話 されました。高見先生のお話 やちいろばだよりの中で何度も「教会は他者のため
に 存在する とき きやうかい というドイツのボンヘッファー牧師のことばが引用されています。「他者
のために、他者 とともに」という思想であり、ちいろば園の 目標 だ とおっしゃっていました。じ ぶん
じんせい 人生をかけて、相手の問題と向き合うことは容易ではありません。しかし、他者の人生に関わるという
ことはそれほどの かくご 覚悟、せきにん ひつよう 責任を必要とし、その 先に とともに 笑い、ともに 泣く ことができるのですよ、と
いうとても『大事な』こと を 投げかけて下さったのだと思っています。

たか み せんせい わたし し えんしや おお だい じ おし くだ ほんとう
高見先生、私 たち 支援者に多くの『大事な』ことを 教えて下さって 本当にありがとうございます。
ご めいふく お祈り致します。

きょうどこうどうしょうがい ひと ごうりてきはいいりよ
「強度行動障害の人への合理的配慮」

ちいろば園職員 新宮 由士

先日、奈良県強度行動障害支援者養成研修を受講しました。コロナ禍の中での研修なので zoom を使ったりリモート研修になりました。慣れないパソコン操作の中で、悪戦苦闘しながらも研修で学んだ点、感じたこと、今後自分自身が支援者として利用者の皆さんと関わる上で大切に考えていきたいことなどを伝えていければと思います。

強度行動障害とは、自傷、他傷、こだわり、もの壊し、睡眠の乱れ、異食、多動など本人や周囲の人のくらしに影響を及ぼす行動が、著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要になっている状態を意味する用語です。つまり、その人が持っているもともとの障害ではなく、その人の状態を指します。状態を表すので、環境設定や支援方法によって、その状態が軽減すること、逆に重度化することもあります。これだけみると支援が難しい人、大変な人と感じてしまうかもしれません。実際私自身も、「なかなか思うように行動してくれないなあ」「叩かれたらいやだなあ」「困ったなあ」と感じたこともあります。活動の参加の有無より、なによりも落ち着けるように過ごしてもらうことを優先していたこともあります。しかし、ここで大事な視点は、「本人が一番困っている」ということです。言葉でのコミュニケーションの理解、発信が難しいので行動で自分の気持ちを表す。それが、私たちからみると問題となる行動にみえることもあります。今何をして次は何をすればよいか見通しが持ちにくい不安、様々な情報、刺激が気になり集中できないなど、本人の障害特性を理解すること、気になるもの、刺激となるものが少ないかなど環境を整えることも大切です。言葉でのコミュニケーションが難しい→絵カードやピクトグラムなどを用いて伝える。見通しが持ちにくい→本人に分かりやすい、スケジュール表を準備する。環境設定→座る場所、道具の準備、整理されているかなど。本人の不安を軽減するために様々な工夫が必要です。

人の行動には必ず意味があります。その行動の背景には何があるのだろうと疑問を持ち、推測し少しでも本人の想いに気づくことが大切だと感じます。

ただ、これらは強度行動障害のある人に限ったことではありません。知的障害をもつ多くの人にも必要な支援です。

あくまで、私たち支援者は強度行動障害の人を減らすのが目的ではなく、行動障害の人でも、知的障害の人でも、地域で自分らしく生活できるように支援をすることが大切だと思います。その為になにができるか、本人たちがどんな不安を感じているのか想像し合理的な配慮をしていくことが必要だと改めて考えられた研修となりました。

あた 新 しい作業への取り組み

ちいろば園職員 辰己 真奈美

軽作業2階グループでは、私が入社するずっと前から三郷町の地場産業である『ミサト履物協同組合』さんからの下請けを頂いて作業しています。当初は2階の作業室や、廊下に置ききれないぐらいの卓履をいただいていたのですが、近年は少しずつ減ってきていました。そこに追い打ちをかけてコロナの影響と閑散期が重なりこのままではみんなの作業がなくなってしまうと危機感が増してきていました。作業をもらえるところはないか、いろんなところを探していると三郷町にある『コーエイ株式会社』さんに出会うことができました。作業は、キャラクターのお弁当箱のふたにゴムのパッキンをつけ、とってをつけるという作業です。とってをつける作業は、片方の溝に突起部を入れもう片方をパチっとはめないとはいけません。少し硬いし、指も痛いんです。

初めての作業でみんなができるだろうか不安でした。初めのうちは、「こんなん無理やわ。難しいで」という声もあがっていたのですが、何度もしていくにつれ「できたよ。これでいいんやろ」と返ってくるようになってきました。

なかでもOさんは、とても器用に早くていねいに仕上げていけます。今までの作業では作業室で長い時間過ごすことができず、なかなか作業を持続することが難しくふらっと廊下にでていたのですが、とってつけの作業をするようになってからは、作業室で長い時間過ごすことができ、凄い集中力で机の上に出されたお弁当のふたにとってをつけていけます。(もちろん、なかなか気分がのらない時もありますが)今は、ゴムパッキンをつける人、とってをつける人で作業分担



してがんばっています。作業においても『利用者主体』をめざして、どのように関わり、支援していかなければならないか課題でもありますが、誰かの新しい一面が見られたり、みんなと一緒に作業していて楽しいと思える日々がとても愛おしく思います。

「地域」とは？

グループホーム職員 増田 広正

私はこの 3 月で半年になりますが、入居者それぞれを理解し支援方法をきちんと身につけることで、失敬すること多々あります。私が障害者の自立運動に関わったのは 1970 年代半ば、脳性マヒ者団体、青い芝の会との出会いからです。彼らは当時、仲間が施設で自殺に追いやられたとその施設に立てこもったり、バス乗車を拒否されたバスに乗り込んで抗議してました。他方で彼らは「健全者」との交流を求めキャンプをしたり、親や施設に頼り依存した生活から自立した地域での生活を自指して運動を展開してました。私は授業をサボってましたが意識的な労働者も仕事を終えてから関わるなど運動の中で介護者が組織されました。一人住まいを実現した障害者が中心になり、自立生活や活動基盤確保のため街頭カンパ、行政に対する要求、家に閉じ込められた仲間への訪問、買い物等々の活動を展開してました。その中で彼らは地域の人達との接触、交流を増やしてました。しかし「地域生活」を実現できたのはごく少数に限られてました。その後、要求運動の成果もあり作業所やグループホーム作りも広がり、地域で暮らす障害者は増えたと思います。

10 年程前から去年まで、私はケアマネとして高齢者のケアプランを作りましたが、この世界では今、「地域の社会資源の活用」がしきりに謳われています。団塊の世代が後期高齢者（75 歳以上）に達し介護支援のニーズが高まる一方で介護保険財政、国や地方の福祉財政が危機に陥ってきているからです。その穴埋め、危機打開にと期待される「地域の社会資源」はどれだけあるでしょう。介護保険制度を利用し金儲けをもちろむ会社が自立しますが、「地域」とは何なのか、改めて問い直さざるを得ません。

親しくなった隣人とも挨拶程度。せいぜい自治会役員の順番が回ってきたら断れず分擔するだけ。回覧板で計報も回ってくるけど、その人が生前どんな仕事をしどんなニーズをもっていたか想像もできません。近所にどんな障害者がどれだけいるかも分かりません。悲しいかな、とても助け合いなど考えられません。働けるうちは競合する会社の一つに雇われ、その戦士、道具になって仕事に追われ、家には一息つくために帰ってくるだけ。地域のことなど考える余裕もありません。動けなくなっても地域の人々に助けを求めることなど思いもつきません。

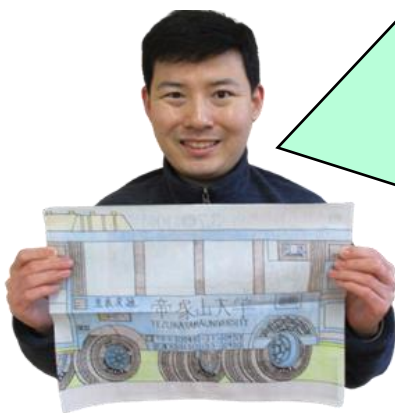
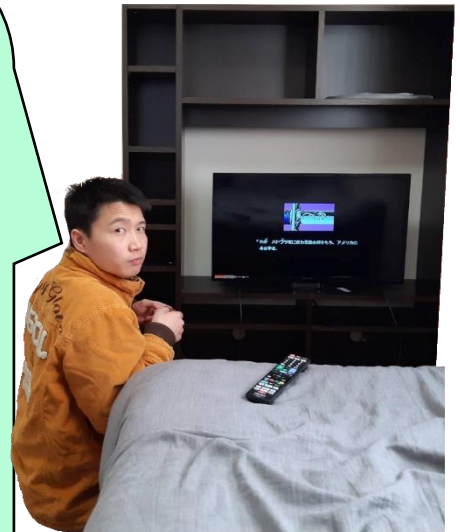
そんな地域を根本から考え直すきっかけに、グループホームがなれば良いと思います。どんどん地域に出て行っている人と出会い、お互い何が必要なのか、どんな関係が作れるのか、何が問題なのか等々考えて行きたいと思います、真のコミュニティを求めて。



ぼくも わたしも みんなが主役 しゅやく —

- 質問① しつもん 名前と年齢は？ なまえ ねんれい
 質問② しつもん 家族にまつわるエピソードは？ かぞく
 質問③ しつもん 学校時代のエピソード、または就労中のエピソードは？ がっこうじだい
 質問④ しつもん 最近気になっていること、興味があることは？ さいきん き きょうみ

- ① おおはし けん しろう 大橋 賢志朗です。33歳です。 さい
 ② ぼくは 普段グループホーム日之出荘で暮らしています。
お盆休みとお正月休みに、家族で和歌山のアドベンチャーワールドに行くのが楽しみです。
夏は海で泳ぐのも好きです。
 ③ がっこうじだい 学校時代は、掃除の時間に毎回さぼって、スケートボードで走り回っていました。 はし まわ
がっこうの門を乗り越えて、抜け出そうとして、毎回、教頭先生に止められていました。
 ④ ぼくは、物がきちんと置かれてないと、とてもきになります。
きれいにまっすぐ整えることが得意です。
さいきん 最近、ユーチューブで、赤影、Qちゃん、ムーミンなどを見るのが好きです。たまに休憩時間が終わっても夢中で見てしまうことがあります。



- ① やまだ たすく 山田 援 です。33歳です。 さい
 ② お父さん、お母さん、お兄ちゃん、歩ちゃん（妹）と僕の5人でくらしています。
お父さんとお兄ちゃんとスポーツクラブに通っています。
でも今はコロナで通えていないので、早くスポーツクラブのプールで泳ぎたいです。
 ③ おうじしょうがっこう 王寺小学校、おうじちゅうがっこう 王寺中学校、せいわようごがっこうこうとうぶ 西和養護学校高等部です。西和養護学校高等部の運動会や、文化祭が楽しかったです。 ぶんかさい
ダイリユウ大和高田で働いていました。朝早起きして行きました。一所懸命に働きました。
 ④ ひこうき 飛行機に乗って、旅行に行きたいです。 りょこう
ちいろばまつりがしたいです。
ちいろば旅行に行きたいです。
ピープルファースト大会に行きたいです。

冬季法人職員研修 テーマ：在日朝鮮人差別に学ぶⅣ～映画「焼肉ドラゴン」を鑑賞して～

ちいしば園職員 阪口寿久

この2年間、強制連行や創氏改名、皇民化運動などの歴史や、在日を生きた人たちの今を学んだ。それがこの映画でひとつにつながった。物語の舞台1970年は、私が中学生の頃である。日本が朝鮮を植民地化した1910年当時、約200万人の朝鮮人が日本に連れてこられ、その一部の人たちは、戦後も帰ることができず日本で生きてきた。そんな家族の話である。

印象的だったのは、龍吉が語った、戦後、静香と梨花と先妻で故郷に帰るつもりが家財道具を積んだ船が沈んで財産全て失くした事。それでも故郷に帰るために働き続けたけど、実家の家族、親族、友人は済州島での事件でみんな殺されたこと。その後の朝鮮戦争で先妻が死に、二人娘を抱えた龍吉と村を焼かれた栄順と結婚。帰る村がなく、働いてはたらいで息子の時生が産まれまた働く。故郷は近いけど、ものすごく遠い。それがわしの人生…わしの運命。娘には娘らの人生がある…わしの分も幸せになってほしいよろしく頼む。と娘の婚約者に頭を下げたところは忘れられない。華やかなイメージのある高度経済成長期の裏で、必死に生きてきた彼らの存在を知り、その後の彼らの選択には心が痛くなった。

私が教師時代、家庭訪問をした際「うちの家は韓国朝鮮人です。息子には日本で生きていく中で是非とも学力をつけさせたい。学力だけは、誰にも奪われないから」と話されたことがあった。今それを思い出すと、龍吉の思いがひしひしと伝わってくる。

今回の映画は、そんな自分を思い出す大事な時間であった。今まで考えもしなかったことを深く考えたり、新しい発見もあり、時には自分の差別性に気付くこともできた。映画を通して学んだ事を再度掘り下げ皆で共に考え成長したい。

グループホーム職員 加地まさ子

済州島の歴史やコリアンへの差別等を学ばせて頂きました。その続きで済州島の「4・3事件」を取り上げている梁石日の「大いなる時を求めて」を読んだり、新聞で在日コリアンの記事も目にとまりました。在日コリアンの作家深沢潮さんが差別の苦しみや生きづらさを語っています。その中の一部ですが、結婚して母親になると在日コリアンと知らないママ友から韓国人を見下す発言を聞かされ心臓に針を刺されたような気持ちだったとありました。言葉は突き刺す針にも注射の針にもなると教えてもらった事がふと思い浮かびました。自分も今まで気づかないところでどれだけ人を傷つけてきたかはかりしれません。また深沢さんは「K-POPや韓流ドラマが人気だから韓国人や在日への差別はないでしょう。私差別しないし」などの言葉を善意から発する人には、辛い気持ちを吐露できない…….と語っています。他にもチャン・ヘンさんという在日3世のパフォーマーの方も語っています。小3から壮絶ないじめを受けたようで、公園でいじめられていた小4の時、「やめてください」と言って助けてくれた気の弱そうなおっちゃん。昼間いつも小学生と遊んでいて近所の方は不審者扱いしていたようです。それから毎日一緒に遊んでくれたそうです。しかしその後おっちゃんは自殺したのです。噂では母親の介護に疲れたとのこと。このような光景をなにかの映画で見たような気がしました。映画の中では登校拒否の小学生が不審者扱いされているおっちゃんに野球を教えてもらっていたようですが、いつの間にかおっちゃんの姿がなくなりなくなってしまうように思います。この2つの共通点はおっちゃんに助けてもらい立派に成長していることです。チャン・ヘンさんはこう締めくくっています。「僕はあのおっちゃんがしてくれたことをしたいんです。」と。そして自分にできるのは問題提起！だと。私はたいたことは何もできませんが悩みつづ懸命に生きていく人に温かい眼差しを向け寄り添いたいです。そして人と人との繋がりを広めていきたいです。

★ 後援会費・ちいろばだより年間購読料 (2021年12月1日～2022年1月31日)
ご協力ありがとうございます。

篠原範子、窪田義廣、草苑幼稚園、岡田登志、吉田典生、ひかりの子学園、
あいのそのこども園、恵愛保育園、平山健次郎 (フルハウスの会)、森谷公将、
馬見労務教会、岩永大樹、木ノ脇廣子

以上 敬称は略させていただきます
ちいろばだよりの年間購読料は、500円／年です。

緊急告知！！

グループホーム再編反対奈良県集会を開催します。

4月14日 (木) 13:30～ いかるがホール

詳細はちいろば会ホームページトップページからダウンロードしていただけます。



ブルーベリーのオーナー募集



2022年度のブルーベリーオーナーさまを募集しています。ちいろば園で栽培している
木を1株選び7月中旬～8月中旬の収穫ができます。今年は例年よりも剪定を
強く行ったことから一株あたりの収穫量が減少することが予想されるため料金は
2800円とさせていただきます。募集口数は10口とさせていただきます。
思う存分『自然』と『ブルーベリー』を味わいたい方、ぜひご連絡下さい。

お問い合わせ先：電話／0745-72-1923

ちいろば園 ブルーベリー担当まで

収穫場所：ちいろば園 1口(1株)：2,800円 申し込み期間：5月中まで

※10組以上の応募があった場合は抽選のうえ決定させていただきます。

KSKS ちいろばだより

編集人／ ちいろば会後援会

年6回 頒価 50円

連絡先／ 奈良県生駒郡三郷町勢野北5-6-14

TEL：0745-72-1923 FAX：0745-72-1924

発行人／ 関西障害者定期刊行物協会

大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4F

二〇〇〇年十二月十二日

第三種郵便物承認

毎月(一・二・三・四・五・六・七・八)の日発行